

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 学活-60「職業のつながり」

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

① 職業に関する動画やはたらく様子の写真などをTVに投影し、議題に関する関心を高める。

② ロイロノートの共有ノートを開き、個人で3つのカードに書き込む。

③ グループ内での発表用カードを作り、発表しながら個人のカードを貼り付けていく。

④ グループ内での発表用カードに貼り付けられたカードを線で結ぶ。

⑤ グループ内での発表用カードを提出し、回答共有して互いに確認する。

4 指導過程

学習活動

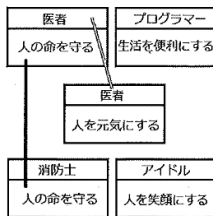
- 1 本時のねらいを知る。
- 2 自分の考えをもつ。
(1) 興味のある職業を三つ付箋に書く。
(2) 三つの職業について、それぞれ自分が考える「社会での役立ち」を書く。

<例>

医者 人の命を守る	プログラマー 生活を便利にする	アイドル 人を笑顔にする
--------------	--------------------	-----------------

- 3 グループ内で発表し合い、考えをまとめる。
(1) 発表し合いながら、付箋を模造紙に貼る。
(2) 同じ「職業」及び同じ「社会での役立ち」を線で結び、関係付けを行う。

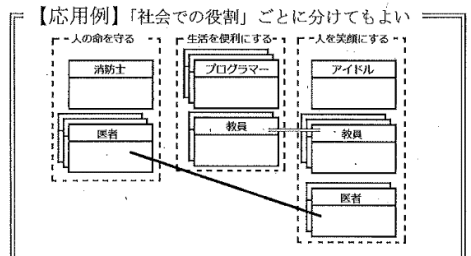
<例>



- 4 他のグループと互いの模造紙を見合い、「職業」と「社会での役立ち」について、気付いたことや新しく発見したことをワークシートに記入し、発表し合う。

指導上の留意点

- 自分の考えと級友の考えを結び付けて、新しい「職業のつながり」を見付ける活動であることを伝える。
- 職業名を挙げやすくするために、興味のある職業についてのアンケートを一覧にまとめておく。
- 職業名や「社会での役立ち」を付箋に記入するようにすると、模造紙にまとめやすくなります。また、グループのメンバー人ずつ付箋の色を指定すると誰の意見かを確認することができます。
- 「社会での役立ち」について、「医者」や「消防士」などを例に挙げ、「人の命を守る」などの具体例を示すと考えやすくなる。
- 人それぞれの考え方があるので、「社会での役立ち」は違っていてもよいことを確認する。
- 各自で発表しながら模造紙に付箋を貼り出すように指示する。
- 貼り出された職業について、新たな「社会での役立ち」についての意見が出たら、書き足してもよいことを伝える。
- 同じ「職業」は二重線で結び、同じ「社会での役立ち」は線で結ぶように指示する。
- 各グループでまとめられた模造紙を黒板に掲示して、学級全体で共有できるようにする。



- 社会にある職業には、それぞれ必要とされる役割があり、職業を選択する上で大切な要素であることを押さえる。
- ポートフォリオにファイリングし、係活動や当番活動、委員会活動、学校行事等における自己の役割に目を向けるきっかけにするとよい。

3 タブレット活用の有効性について

① 共有ノート機能を活用することにより、手元のタブレットでグループ全員のカード操作を行いながら発表を行うことができる。また、模造紙のスペースも不要なことから、グループの座席配置生徒も自由にレイアウトすることができ、より話し合いの進む環境作りを行うことができる。

② 「付箋に書く、模造紙へ貼る操作活動」よりも話し合いながらの操作が容易なため、多様な考えに触れることができたり、それぞれの考をもっている人数も明らかになりやすいことから、意見選択の幅が広がる。

また、関連が分かりやすく、その関連職業を一つのカードに関係づけることができるため、特定の職業に固執している場合でも、考えの幅を広げやすい。